

青森県農業共済組合 (NOSAI 青森)

1. 青森県の紹介

本州の最北端に位置する青森県は、北は津軽海峡を隔てて北海道と相對し、東は太平洋、西は日本海に囲まれ、南は秋田県・岩手県に接しています。

本州最北端にあるため、冷涼型の気候であり、短い夏と長い冬が特色です。また、山脈、半島、陸奥湾など複雑な地形や海流の関係で、同じ県内でも県南地域と津軽地域では、その様相を異にしていることも特徴的です。

夏季は、北太平洋に発達する高気圧により、県南地域では春の終わりから夏にかけて偏東風が吹き込むため、低温の日が多く、冷害に見舞われやすい一方で、津軽地域では一般的に気温が高く、比較的気象に恵まれています。

冬季は、大陸高気圧の影響により北西の季節風が卓越するため、津軽地域は気候不良で多雪となりますが、県南地域は冷え込みが厳しいものの、津軽地域に比べると晴天の日が多く、降雪量も少なくなっています。

交通インフラストラクチャーとしては、青

森市から東京都までは、鉄道距離（奥羽本線・東北新幹線）で約720kmとなり、東京都から岡山市（733km）までとほぼ同じ距離です。

また、東京までの移動時間は、鉄道では東北新幹線で約3時間、自動車では東北縦貫自動車道を使うと約8時間、飛行機では青森空港から約1時間となっています。

祭りは青森ねぶた祭、弘前ねぶたまつり、黒石ねぶた祭り、五所川原立佞武多、八戸三社大祭などが有名です。また、県内では縄文時代の遺跡が数多く出土し、三内丸山遺跡（青森市）や二ツ森貝塚、是川遺跡（八戸市）などで住居跡や土器および土偶が発見されています。



青森ねぶた祭

2. 青森県の農業

地域の特性を生かした農業がおこなわれており、主に津軽地域では米やりんご作り、県南地域では野菜作りや畜産業がさかんです。

耕地面積のうち53%が田で、県全体の農家のうち62%が米作りにかかわっており、「青天の霹靂」「つがるロマン」「まっしぐら」などの品種が作付けされています。

広くゆたかな耕地や夏のすずしい気候などを利用した野菜作りでは、「ながいも」「にんにく」「ごぼう」などの根菜類を中心に、「ねぎ」「トマト」「きゅうり」「キャベツ」なども生産されています。

夏でもすずしい気候を利用して、いろいろな果物が栽培されており、「りんご」の栽培面積・収穫量とも全国の半分以上をしめる、全国一の産地です。ほかにも「ぶどう」「西洋

なし」「さくらんぼ」「もも」「ブルーベリー」「あんず」「すもも」なども栽培されています。

夏のすずしい気候は花作りにも適しており、青森県産の花は色が鮮やかで長もちするので人気があります。切り花類の生産が中心で花の作付面積の約71%をしめています。一番さかんなものは「キク」で、ほかには「サクラ」「トルコギキョウ」「ヒマワリ」「バラ」「アルストロメリア」などが栽培されています。

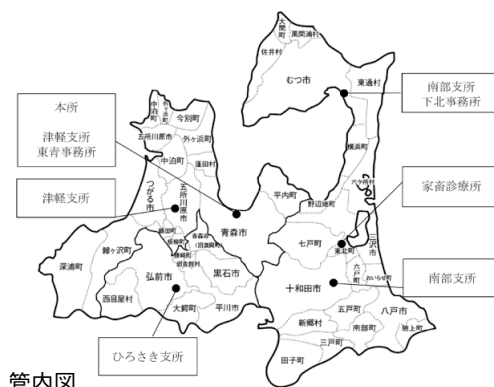
畜産業が農業の柱のひとつになっており、緑ゆたかな自然や夏のすずしい気候は、畜産物の生産に適した環境で、この有利な条件をいかし、県内各地で家畜が飼育されています。とくに「ぶた」や「にわとり」の飼育がさかんで、農家1戸あたりの飼育数は、全国で上位に位置しています。

3. 青森県農業共済組合の概要

- 本所所在地：青森県青森市本町5丁目5番21号
- 本所TEL：(017) 775-1161
- 理事：21名
- 監事：3名
- 職員数：176名



NOSA I 青森本所



管内図



組合役員



本所職員



家畜診療所職員



津軽支所職員



東青事務所職員



ひろさき支所職員



南部支所職員



下北事務所職員

4. 青森県農業共済組合の活動

農業保険制度は「農業共済制度」と「収入保険制度」からなる国の制度です。自然災害や不慮の事故、価格低下などにより農業者が受ける損失を補てんし、農業経営の安定と農業生産の継続と発展を目的としており、農業災害対策の重要な柱となっております。

2019年4月、県内の3農業共済組合が合併して「青森県農業共済組合」が発足し、同年5月に特定組合となりました。

2022年は、特定組合化4年目に当たる年で、役員交代の節目でもあり、大きな転換期を迎

えました。

新たな体制の中で、農業の持続的発展における農業経営の安定化に向けて、農業者の理解を得ながら「備えあれば憂いなし」の農業生産体制を構築するため、農業共済制度と収入保険制度への加入促進や制度の周知など役職員一丸となり、農業者のセーフティネットとなるよう努力を続け、将来にわたって持続可能な安定した組合運営に取り組んでまいります。